

図書だより 7月号



学校図書館司書 今井真子

本の帯 募集しています



今年も本の帯を募集しています。本の帯とは、その本を言葉や絵で紹介するものです。



本を読んでみて面白かったところや、おすすめのところを言葉や絵で書いてください。

用紙と応募票は、図書室に置いてあります。締め切りは、7月14日（金）です。



読書感想文課題図書のご紹介 (2回目)



『ライスボールとみそ蔵と』梅田明子・作 (3・4年生用)

古い蔵で手作りみそを作る家に生まれたジュンは、みそ作りにきょうみがもてないでいました。でも、ロンドンからの転校生、ユキちゃんに「蔵を見せてほしい」とたのまれ、これがきっかけで、ジュンの心はだんだんと変化していきます。

『秘密の大作戦！ フードバンクどろぼうをつかまえろ！』

オンジャリQ・ラウフ 著 (3・4年生用)

おなかをすかせた人々を救ってきたフードバンク(食べ物銀行)。そんなすばらしい銀行が、悪いやつらにねらわれています。ネルソンたちは、探偵となってひそかに調査にのりだしました。

『化石のよび声がきこえる』ヘレイン・ベッカー 作 (3・4年生用)

ウェンディは、ほかのみんなが気づかないすてきなものを見つけることが得意です。ある日見つけたのは、なんと何千万年も前の恐竜の化石でした！

白亜紀を生きた恐竜「ウェンディケラトプス」の化石を世界ではじめて発掘し、その名の由来となった女性恐竜ハンター、ウェンディ・スロボダの半生を描いた伝記絵本です。

『ふたりのえびす』高森美由紀・作 (5・6年生用)

青森県八戸市の郷土芸能「えんぶり」のえびす舞の踊り手に抜擢された太一は、クラスでは明るいおちゃらけキャラを演じていますが、その心は複雑です。「王子」と呼ばれ女子から人気の高い、大路優希とふたりでえびす舞の練習をするなかで、たがいの気持ちをぶつけ合い成長していきます。最後にふたりがつかんだものとは・・・

『5番レーン』ウン・ソホル 作 (5・6年生用)

常に勝ち続ける小6の女子カン・ナルは、水泳部のエースです。でも、最近ではライバルに負け続け、悩んでいました。ライバルの不正を疑ったことから引き起こしてしまった事件をきっかけに、大きく成長する姿を描く、さわやかな物語です。

『魔女だったかもしれないわたし』エル・マクニコル 著 (5・6年生用)

昔、「ひとちがう」というだけで処刑された人たちがいました。魔女裁判の話聞いたアディは、慰霊碑を作ることを提案しますが…。自閉の少女の葛藤と成長を描いた物語です。

『中村哲物語 大地をうるおし平和につくした医師』松島恵利子・著 (5・6年生用)

終わりが見えない戦争や、大干ばつに苦しむアフガニスタン。パキスタンとアフガニスタンにまたがり医療支援を行っていた医師の中村哲さんは、飢餓によって次々に命を落とす子どもたちを前に、白衣を脱ぎすて井戸を掘り、用水路を作りました。そのことによって、65万人もの命を救ったのです。2019年に亡くなった中村哲さんの伝記です。